

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(21)—

東京支店 神原 勇

スズキ目マカジキ科クロカワカジキ

学名: *Makaira mazara*

英名: blue marline

和名: クロカワ・クロカジキ

クロカワカジキは遠洋まぐろ延縄漁業のうちでキワタ・メバチ・ミナミマグロ等のいわゆる「丸もの」に対して、マカジキと共に「長もの」と呼ばれ漁獲量・水揚げ高から見て重要な位置を占める対象魚で、安定した魚価のため市場性もかなり大きい。

良く肥満した体は側偏していないので体の長さの割合には短く見え、60kg以下のものではココロした感じのするものが多い。他のカジキ類すなわちマカジキ・シロカワカジキに比べて、吻部が急に細くなり上アゴの長さが下アゴの長さの約2倍以上で、上アゴは槍の穂先のような細く鋭く突き出ている。ウロコは比較的にはなれ易くその跡が褐色になるところからクロカワの呼び名の由来するところである。学名は属名、種名の順で表現されるが種名の *mazara* は房総半島南部地方での「マザアラ」から出ているといわれる。背面は暗緑色で褐色味をおびた腹面にはコバルト色の十数条の横縞があり、漁獲され甲板上にあげられると、尾をふり鼻先(上アゴ)をばたつかせて暴れ廻るがその時の腹部のコバルト色の横縞は燦然と輝き断末魔の美しさがあらわれ、死後はかすかな横縞を残すか、または消失してしまう。

体はシロカワカジキについて大きく、最大体重900kgのものが報告されている (Robine & de Sylva: 1960) 体重は雄と雌とでは異なり、雄はせいぜい100kg~120kgどまりで、これより大きい

ものはすべて雌である。遠洋まぐろ延縄漁船による漁獲物は50~100kgのものが大部分を占めている。

全世界の暖海に分布し典型的な外洋魚であるがサンゴ礁・環礁(アトール)等の急激なる深みを形成している海域でも見られる事がある。

北部太平洋では18~28°Nの中緯度海域で5月~9月にかけて漁場が形成され、東方に行くにしたがい1ヶ月づつズレる傾向と共に魚群の濃度(釣獲率からみたもの)も東へ行く程濃くなっている。

また南半球では10°S以南の海域で10~3月にかけて釣獲率が高くなっている。両半球の漁期の半年のズレおよび体長組成等より考えて良く相似ているので赤道を越えて交流し合っているものと考えられるし、また東西方向にも大移動をしているものと思われる。

世界の主なクロカワカジキの漁場は、

1. ツアモツ諸島東方の20°S。漁期の最盛期は11月~2月。リーフに近寄るとピンチョウが多獲されるようになる。
2. マーシャル諸島東方海域の15°Nより以北および以東。漁期は6月~7月。
3. アラビヤ海ラッカディブ諸島周辺の18°N附近。漁期は6月~7月。海上極めて平穏。
4. ブラジル東海岸フリオ岬南方海域の25°S附近。漁期は12月~2月にかけて、可成りの荒天。

スズキ目 マカジキ科 クロカワカジキ

学名: *Makaira mazara*

英名: blue marline

和名: クロカワ、クロカジキ

他のカジキ類=ピンチ、吻部が急=細ワリ、頭部は比較的小サク、体は長ク肥満シテイテアマリ偏シテイテ、体長が割合=短ク見エル。体長"シロカワカジキ"ニ次イテ大キク、雄ト雌トト大キサニ相異ガアリ、雄ハ120kg位ニシカナラズ、ソレヨリ大型モノハ雌ベテ雌デアル。体色ハ背面ガ暗緑色デ、腹面ハマヤ褐色味ヲオビ、側面ハコバルト色ノ横縞カラ成ル十数条ノ横縞ガアル。暖海ニシテ分布シ太平洋ヲ北赤道流々域ニ多イ。肉ハシロカワカジキト大同小異デ、概シテ脂肪ガ多ク、脊節及水域ニヨリ可成リ美味デアル。遠洋延縄漁ニヨリ周年漁獲サレル。



英領バージン諸島 - 1972



キューバ - 1971



英領バージン諸島 - 1968



ジャマイカ - 1964



モリシウス - 1970